



## AichiSR BL8S2 ビームラインへのX線暗視野 CT 装置による サンプル撮像実験 2

砂口尚輝<sup>1</sup>, 島雄大介<sup>2</sup>, 桜井郁也<sup>1</sup>, 花田賢志<sup>3</sup>

1 名古屋大学, 2 北海道科学大学, 3 あいちシンクロトロン光センター

キーワード : X線暗視野法, 位相コントラスト, X線 CT, 空間分解能

### 1. 背景と研究目的

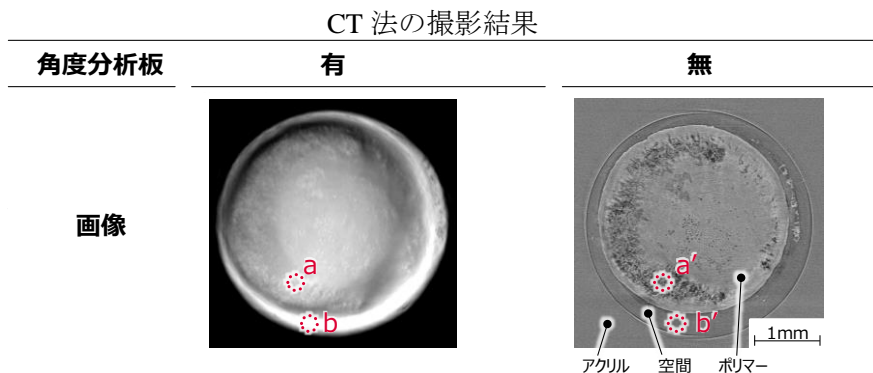
位相コントラスト X線撮影法(PCI)は、従来の吸収コントラストに基づく撮影法(ACI)と比べて生体軟組織の高コントラストな撮影が可能であることから、乳癌診断への利用に向けた研究が進められている。我々のグループでは、PCI の中でも高感度・高空間分解能に生体軟組織を撮影できる X線暗視野法(XDFI)を開発し、乳房の非浸潤性乳管癌、非浸潤性小葉癌、リウマチ性骨関節病変、硬化した動脈などをミクロレベルで詳細に描出できることを示してきた[1]。現在、知の拠点重点プロジェクト第3期に採択された課題として XDFI-CT 撮像装置を AichiSR BL8S2 ビームラインへ構築を進めている。今回の実験はそれに関連し、各種サンプルを撮像する。

### 2. 実験内容

XDFI-CT 撮像システムを BL8S2 ビームライン内に構築し、空間分解能評価用マイクロチャートの屈折コントラスト像を測定した。実験条件のうち、X線エネルギーは 19.8 keV、ビームサイズは 24×40 mm<sup>2</sup>、XDFI 光学系の中で使用されるアナライザーは厚さ 166 μm の Laue 型 Si(111)結晶薄板、画像検出器は浜ホト製 sCMOS カメラ (Pixel size: 6.5 μm, FOV: 13.3×13.3 mm<sup>2</sup>) である。

### 3. 結果および考察

今回の実験では Li イオン電池の CT が撮像されたが、充放電による Li の劣化を観察することができた。次回以降の実験で、空間分解能の向上を目的とする装置の改良が予定されている。これにより微細な Li の析出状況を観察できると期待される。



### 4. 参考文献

1. M. Ando, N. Sunaguchi, D. Shimao et al, Dark-field imaging: Recent developments and potential clinical applications, *Phys. Med.*, Vol. 32, No. 12, pp. 1801-1812 (2016).